

て眞宗東派に属する。

ジヨウエイジ 常榮寺 金澤笹ヶ町に在つて、惠光山と號し、日蓮宗に属する。正保二年羽咋郡妙成寺の日傳之を櫻島に建てたが、明和二年今の地に移つた。

ジヨウエイジ 成榮寺 鳳至郡長尾に在つて、眞宗東派に属する。

ジヨウエンジ 松縁寺 江沼郡大聖寺鐵砲町にあつて、淨土宗に属する。寛永二十年金澤法船寺に居た近譽順應の創立に係る。

ジヨウエンジ 照圓寺 金澤五寶町に在つて、眞宗西派に属する。延徳三年石川郡山島村に法敬坊順誓の創立した所で、前田利常の時教空一名准宣といふ者が今の所に移り、惣祿たることを命ぜられ、爾後常に觸頭の地位にあつた。

ジヨウエンジ 勝圓寺 能美郡小松八日市町に在つて、眞宗東派に属する。もと同郡松岡村に居たが、正保二年今の地に移つたといふ。

ジヨウエンジ 勝圓寺 鹿島郡東濱に在つて、眞宗西派に属する。

ジヨウエンジ 正圓寺 鳳至郡内屋に在つて、眞宗東派に属する。

ジヨウエンジ 乘圓寺 金澤三所町に在つて、眞宗東派に属する。もと石川郡宮腰西寺内に在つたが、天保三年今の所に移つた。

ジヨウエンジ 上行寺 河北郡大浦に在つて、眞宗東派に属する。初め上衍坊と稱したが、明治十二年十月寺號を改めた。

シヨウオウシヨウソクシユウ 蕉翁消息集 金澤の俳人閑更が京に出てから、天明六年同地の林屋權兵衛・菊屋太兵衛に出板せしめた

ものである。内容は芭蕉の書簡の蒐集で、その所藏者の姓名も擧げてある。

シヨウオウシヨウリュウ 紹屋昌隆 曹洞宗の僧。南榮禮三に參すること十年、遂に印可を受けて總持寺に出世し、能登の安樂寺に遷り、居ること十四年の後、木下延俊の請によつて松屋寺に住した。元和元年四月一日示寂。

シヨウカ 證果 續古事談に、白山の頂に往行の人を、山内の民が證果の人といふとある。證果は佛道によつて悟道した意であるのから轉用したのである。

シヨウガクイン 正覺院 羽咋郡一宮寺家に在つて眞言宗に属し、もと氣多神社の社僧であつた。當寺に阿彌陀如来座像がある。体高一米一種・臺高七五種。寄木造、内割。頂髻・体軀・鬘線共に藤原時代の様式に成つた佳作であり、元和中箔押せられた爲美觀を損じたのを、昭和十年の大修繕で略原形を復した。光背も光心のみは像と同時代だが、その他は元和のものらしい。もと氣多神社の講堂に安置せられた本尊といはれ、大正十三年九月國寶に指定せられた。又絹本着色十二天像十二幅各堅八一種・横三七種があり、その中二圖に藤原長谷川信春廿六歳筆、一圖に長谷川廿六歳筆と書せられるもので、重要美術品に指定せられてゐる。その他絹本着色不動八大童子像一幅堅一米四種・横六六種は鎌倉時代の作、舊氣多神社攝社若宮神社木造神体一軀高三〇種、舊氣多神社本殿懸佛徑一米五七種は桃山乃至江戸時代初期の作、舊同攝社白山神社懸佛徑一米二四種も同時代の作、舊大穴持神社木造藥師如来座像壹軀高二五種は

室町末期の作と認められ、能登國作佛藥師の一とせられた一宮藥師院藥師座像一軀高三四種もあるが、これは江戸時代の作である。叙上は神佛分離の際、又は氣多神社の他の社僧が廢滅の際、すべて當寺に保存せられるに至つたものである。

シヨウガクケンリュウ 紹嶽堅隆 曹洞宗の僧。出羽の人。義山等仁に教を受け、初め石川郡大乘寺九代に住し、次いで承天寺六代に移つた。文明十七年十一月廿九日寂。

シヨウカクジ 照覺寺 羽咋郡小川に在つて、眞宗東派に属する。

シヨウガクジ 正覺寺 金澤木新保に在つて、眞宗東派に属する。初め石川郡諸江に居たが、寛永十二年金澤堀川町に移り、寛保元年又今の地に轉じた。

シヨウガクジ 正覺寺 江沼郡大聖寺なる山下にあつて、淨土宗に属する。天正元年深譽芳宿の開基に係る。

シヨウガクジ 正覺寺 能美郡小松松任町に在つて、眞宗西派に属する。明治十一年六月から寺號の公稱を許された。

シヨウガクジ 正覺寺 河北郡氣屋に在つて、眞宗東派に属する。

シヨウガクジ 正覺寺 羽咋郡上島に在つて、眞宗東派に属する。初め同郡鳥越に居たが、寛文元年今の地に轉じたといふ。

シヨウガクジ 正覺寺 鳳至郡曹洞宗總持寺の山内普藏院に隸屬し、慶長二年別峰の建立に係るものであつたが、今は廢絶した。

シヨウガクジ 正覺寺 鳳至郡輪島に在つて、眞宗東派に属する。初め同郡稻舟に居たが、慶安元年今の地に轉じたといふ。

シヨウガクジ 正覺寺 鳳至郡沖波に在つて、眞宗東派に属する。

ジヨウカクジ 淨覺寺 鹿島郡佐波に在つて、眞宗東派に属する。

ジヨウカクジ 淨覺寺 鳳至郡鶴川に在つて、日蓮宗に属する。山號は實掌山。慶長二年日覺の建立に係る。

ジヨウガクジ 定額寺 (一) 加賀の定額寺一定額寺は、王朝に於ける諸國の官寺中、數を限つて特別の資格を與へられたものである。今加賀の定額寺に就いて考へるに、三代實錄元慶八年十二月十六日の條に、加賀國加賀郡彌勒寺定額に預るとあるに拘らず、翌仁和元年二月十六日の條にも同一の記事あるは、何れか一方の誤謬なること明らかであり、類聚國史は後者を採つてゐる。而して彌勒寺の位置は、現河北郡森下村に彌勒繩手の名があるから、その附近であつたと思はれる。

(二) 能登の定額寺一能登では、日本後紀弘仁三年五月廿八日の條に、『越中の講師をして能登國部の内定額寺を檢校せしむ。これこの國に元來講師を置かざる爲なり。』とあるから、明らかに定額寺のあつたことを知るべく、而してその定額寺は承和十年十二月朔、能登國部内定額大興寺を以て始めて國分寺としたといふもの即ち是である。

ジヨウガクジ 成學寺 金澤蛤坂町に在つて、高養山と號し、淨土宗に属する。正保四年、是より先松平又右衛門歿して子がなかつたので、その後室が第地に寺を起し、次いで玉泉寺の上地を請うて之を移したのである。又右衛門の戒名によつて初は成學院といふた